

報告

ベトナム国際アートイベント

「THE 6TH HANOI ART CONNECTING
INTERNATIONAL ART WORKSHOP &
EXHIBITION」

における制作と実演

P23-32

木森 圭一郎

KIMORI Keiichiro

造形芸術学科

1.これまでのベトナムとの関わり

筆者とベトナムの関わりは2018年まで遡る。2018年にベトナム・ハノイで催された国際アートイベント「Exhibitions and exchanges between Vietnamese artists and other Asian artists」に、招待作家として参加し、同年の8月20～27日まで滞在制作と参加アーティストの合同展示会が実施された。その翌年にはベトナム・ダナンで催された国際アートイベント「1st International Fine Arts Exchange Workshop & Exhibition 2019 in Danang, Vietnam」に、やはり招待作家として参加し、2019年7月25日～8月2日まで滞在制作と参加者の合同展示会が実施された。

ベトナムに関わらず、筆者が海外の国際アートイベントに参加する場合、その多くがアーティスト・イン・レジデンス（滞在制作）形式のイベントであった。その為、現地の母国語や公用語である英語が不自由である筆者であっても、滞在期間中に寝食を共にする中で交流が生まれ、自然にアーティスト同士の連帯感や共感が生まれていく。

前述のベトナムにおける2回のアートイベントはどちらもベトナム人アーティストDuong Ngo氏が主催し、ハノイのイベントはフィリピンのアーティストであるフィリピン芸術協会会長Virgilio “Pandy” Aviado氏によって推薦された。Duong氏はベトナムで2018年に初めて交友を持ったが、Pandy氏は2014年のマレーシアにおける国際アートイベントで交友を持ち、互いに連絡を取り合っている。



2019年ベトナムにおける滞在制作の様子



Duong Ngo氏（2019年）



Virgilio “Pandy” Aviado氏（2019年）

2.THE 6TH HANOI ART CONNECTING INTERNATIONAL ART WORKSHOP & EXHIBITION について

2-1. イベント概要

企画名：THE 6TH HANOI ART CONNECTING INTERNATIONAL ART WORKSHOP & EXHIBITION

開催場所：Hanoi Architectural University（ベトナム・ハノイ）

実施日程：2023年10月18～24日

主催者：Hanoi Architectural University、Asia Art Link、Vietnam Fine Arts Association



アートイベント告知ウェブバナー



Hanoi Architectural University外観

2023年1月のインドに続き、本学の国際学会発表支援費の助成によって、ベトナム・ハノイで催された国際アートイベントに招待作家として参加した。今回もインドのアートイベントと同様、アーティスト・イン・レジデンス（滞在制作）形式のアートイベントであった。

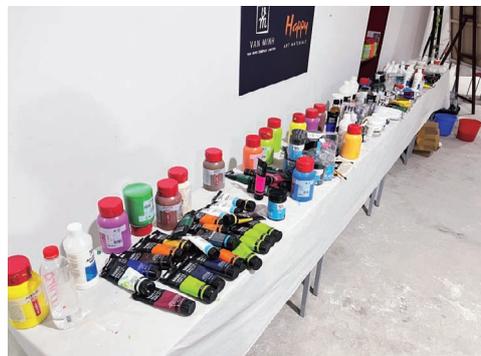
本イベントは、ベトナム・ハノイの建築大学「Hanoi Architectural University」及び、ベトナムのアート団体「Asia Art Link」が主催したものであり、筆者は「Asia Art Link」の設立者 Tuan Trinh氏の推薦によって参加が決定した。Tuan氏はベトナムの著名なアーティストであり、現在Hanoi Industrial Fine Arts Collegeの教授として、後進の育成にもあたっている。ベトナムの伝統的な絵画表現である漆絵を専門とし、数多くの美術館に作品が収蔵されている。



Tuan Trinh 氏

本アートイベントでは、ベトナムを含め30カ国以上の国々（タイ、ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ミャンマー、ネパール、バングラデシュ、スリランカ、モンゴル、インド、中国、日本、韓国、オーストラリア、ドイツ、オーストリア、フランス、北アイルランド、イラン、デンマーク、ブラジル、マケドニア、エジプト、カナダ、メキシコ、スペイン、シンガポール、アメリカ等）から、100人を超えるアーティストが参加した。今回で6回目の開催となるが、筆者自身は今回が初めての参加である。ウクライナをはじめ、戦争の災禍が徐々に世界中に広がりつつある昨今の国際情勢において、諸外国のアーティストとのアートによる平和的な連携を再確認できた、有意義な文化事業であったと思う。

また今回のイベントのスポンサーには、リキテックスやウインザー・アンド・ニュートンなど、国際的にも著名な画材メーカーが名を連ねており、現場では多くの画材がスポンサーより提供されていた。



スポンサーから提供された画材

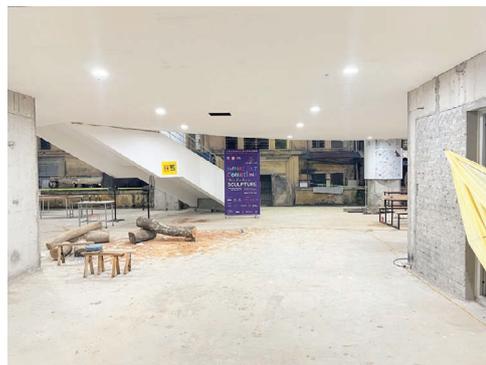
2-2. ワークショップの状況

今回のアーティスト・イン・レジデンスでは、7日間の滞在期間のうち、4日間がワークショップ（制作実演）に充てられた。ワークショップの実施会場は、Hanoi Architectural Universityの敷地内に、新たに建築中のビル1～3階が、主催者より指定された。

会場内は1階が彫刻や陶芸系の制作フロアに、2階が絵画や版画の制作スペース、3階が主にベトナムの絵画系アーティストの制作スペースとなっていた。



ワークスペース外観



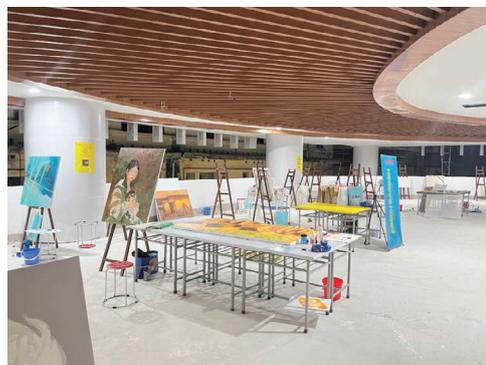
彫刻系のワークスペース



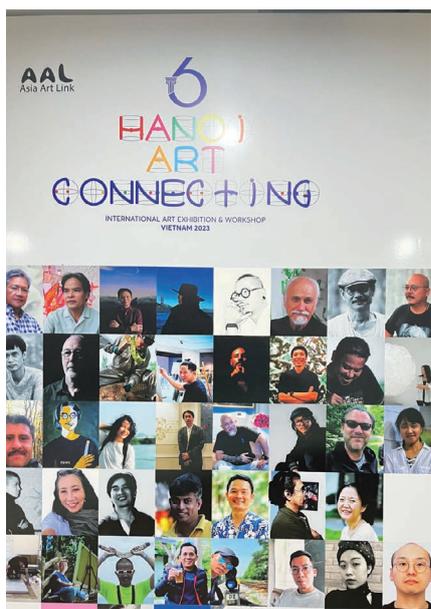
版画系のワークスペース



入り口付近のフロア



絵画系のワークスペース



参加アーティストの写真（本人向かって右下隅）



陶芸系のワークスペース

2-3. ワークショップで使用した画材について

筆者が海外のアートイベントに参加する際、多くの場合基本的な画材（アクリル絵具が中心）は主催者より支給される契約である。しかし筆者は毎回、自己負担で相当量の画材を持ち込み、持参した画材のみで最低1作品は仕上げる事が出来る様に計画している。それは、これまで参加した海外のアートイベントで、主催者に依頼した画材が制作作業開始時に揃っていなかった事や、極端に量が少なかった経験があり、その様な不測の事態への保険として身につけた習慣である。

今回持参した画材のリストを以下に列挙する。

面相筆×3、平筆8号×3、平筆3号×8、刷毛10号×8、刷毛35号×4、紙皿40、紙コップ40、画用木炭40、ジェルメディウム900ml（アクリル）×4、クリスタルジェルメディウム900ml（アクリル）×8、ジェッソ900ml（アクリル）×1、透明水彩絵具60ml（チャイニーズホワイト、バンダイキブラウン）×各2、透明水彩絵具15ml（3原色、ホワイト、バンダイキブラウン、テールベルト）×各8、顔料40g（弁柄、偽金、テールベルト、バンダイキブラウン）×各8、アクリル絵具118ml（3原色、バンダイキブラウン）、霧吹き×4、使い捨てナイロン手袋×100



日本から持ち込んだ画材

2-4. 作品制作過程

① 弁柄下地

金地背景に人物像を描く想定で、顔料の弁柄とアクリルのジェルメディウムを混合し筆・刷毛で斑らに塗り、下地を作る。



屋外で乾燥中の弁柄下地

② 金地背景

金の顔料（偽金、メッキ調の色味）とクリスタルジェルメディウムを混合し、1で作成した下地の上に斑らに塗る。



弁柄下地に金顔料を斑らに塗布した状態

③ アタリを取る

1、2で作成した金と赤による斑色の下地に、画用木炭で人物像のアタリを取る。筆者が人物像を描く際は常に、写生的な正確さではなく、自らのイメージにある人物像を重視して描いている。できるだけイメージをイメージのままに描き出したいのである。



アタリをとった状態

④ 霧吹きを使った描画

バンダイキブラウン（アクリル）と水を9:1程度の割合で混合し、人物像のイメージや3で施したアタリを手がかりに、霧吹きで画面上に塗布する。この段階で筆ではなく霧吹きで描いたのは、画用木炭や筆などでは恣意的になりやすい人の形のイメージに、偶然性を加えたいが為である。



バンダイキブラウンを霧吹きで塗布した状態

⑤ 偶然に現れた形態に加筆

4で作成した人物像の上に、バンダイキブラウン（アクリル）、テールベルト（酸化銅・顔料）、プルシャンブルー（アクリル）といった描画材を中心に筆で加筆していく。この際、人物像の比率や均整を整えていくが、一般的な人の平均値に寄せるのではなく、できるだけ4で偶然に現れた形態から逸脱しないように描いていく。比率を検討する際には、アクリルメディウムと金顔料を混合した絵の具に

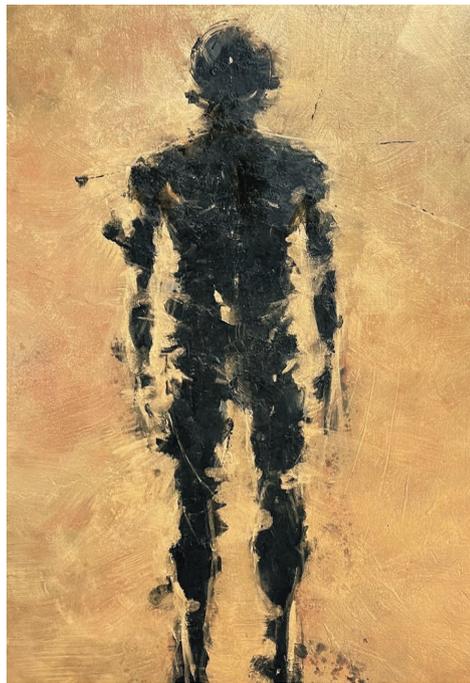


金の描線でアタリを取った状態

よる金の描線で、再度アタリを取り細かく調整していく。

⑥ 金地の色味の調整

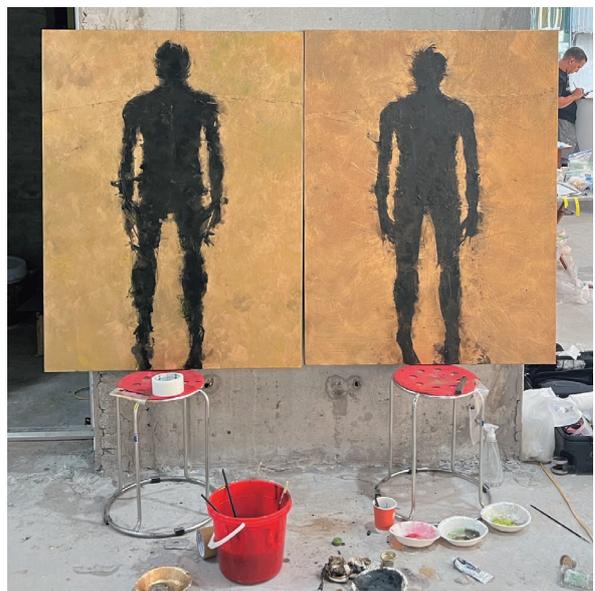
この段階では偶然性を利用して描き出してきた人物像を、筋肉の起始や骨の位置関係等によって再検討し、本作における人物のシルエット（概念像）を練り上げていく。また同時に、使い捨てのナイロングローブを着用し、指や手のひらを使って背景の金地に再度金の顔料を塗り込んでいく。これによって下地の弁柄色を弱め、金の色味は強くなっていく。



筋肉の起始や骨の位置関係等によって再検討

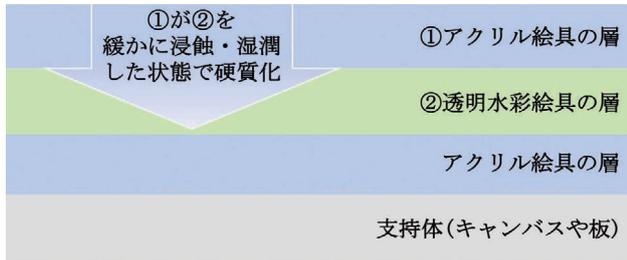
⑦ マチエール（画肌）の仕上げ

6の工程で本作における人物像の検討を終え、ここからはマチエール（画肌）の仕上げに移る。



これまでの材料研究の成果から、水彩絵具を塗布し乾燥後、その上にアクリルメディウムを塗布すると、水彩絵具の層を湿潤・浸蝕することが分かっている。(下図)

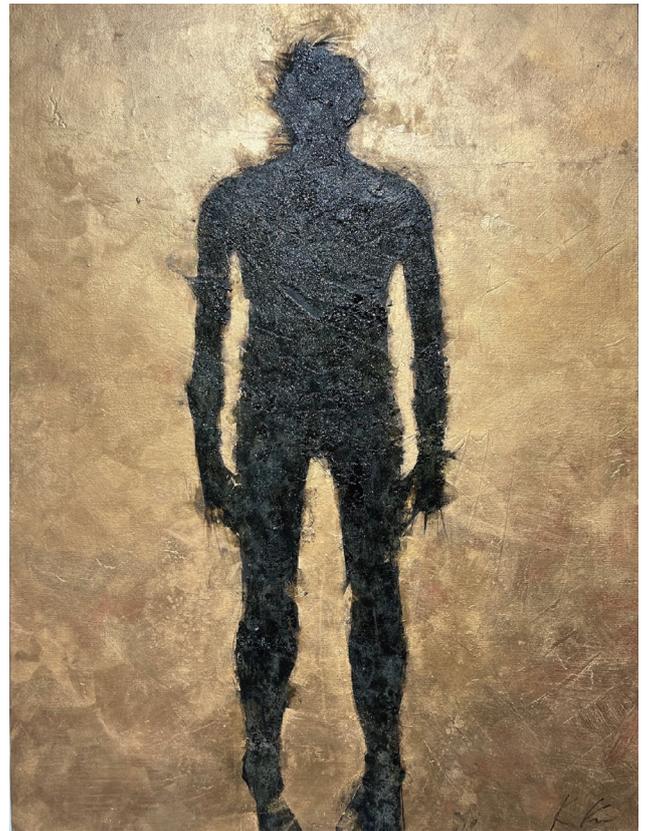
今回はこのような性質を利用したマチエール制作に挑んだ。



乾燥し硬質化したアクリル絵の具による描画層の上に、透明水彩絵具（バンダイキブブラウン）を塗布し乾燥、更にその上にペインティングナイフでクリスタル ジェル メディウム（アクリル）を手早く置いていく。ここで強く画面上に擦りつけると、水彩絵具の層を湿潤し剥がれてしまうので、手早く、あくまで画面上に置く様に乗せていく。そして描画面を上にし、キャンバスを寝せた状態で半日ほど乾燥させる。そうするとアクリルメディウム自体の重さで、下の水彩絵具の層を湿潤・浸蝕しながら乾燥していく。その結果、画面上でアクリルメディウムの濃度に濃淡が生まれ、陶器の貫入に似たひび割れや収縮が、画面上に不規則に起こる。それによって、無機質なシルエット様の人物像に有機性が生まれた。このマチエールの獲得によって、本滞在制作の完成とした。



人物像の貫入様のマチエール



「Physical Concept / Stand still # 1」
アクリル、120 × 90cm



「Physical Concept / Stand still # 2」
アクリル、120 × 90cm

3. 合同展示会

各アーティストが制作した作品は、複数制作した場合も基本的には一人1点、ワークショップの最終日に主催者より選定され、Hanoi Architectural University内に併設されたアートギャラリーにて展示された。筆者の場合は似た作品を2枚制作した為、組み作品として2点展示されている。



アートギャラリー外観



展示会の様子2



アートギャラリー入口



完成作の展示風景1



展示会の様子1



完成作の展示風景2

4. 開会式、閉会式の様子



ワークショップ開会式



感謝状の授与



立食パーティー



立食パーティー



ワークショップ閉会式、合同展覧会開会式



アジア・アートのリンク設立者の Tuan Trinh 氏 (中央)
彫刻家の向井 勝實 氏 (向かって右)

5. 国際交流

これまで筆者が参加して来た海外のアートイベントで交流のあったアーティスト達は、今回のアートイベントにも複数参加しており旧交を温めることが出来た。再確認したお互いの美術制作に取り組む姿勢や完成作品の品質、そしてそこからの信頼関係は、今後のアートによる国際交流へと繋がっていくことだろう。



2018、2019年のワークショップの主催者 Duong 氏



韓国の画家 Cho 氏



Duong 氏の自宅にて



タイの水彩画家 Leanpanit 氏（中央）とタイの仲間達



イタリアの彫刻家 Giuseppe 氏



北アイルランドの画家 Tommy 氏（中央右）とハノイ市内散策の仲間